

疑問を解決!

なぜ? なに?

歯医者さん

どんな器具を使って
いるのかな?

口の中の
何を診ているの
かな?



(公財)ライオン歯科衛生研究所
歯科衛生士 白石 奈々子

歯医者さんで口の中を診てもらっているとき、どんな器具で何をしているのかちょっと気になりますよね。みなさんに安心して歯医者さんに行ってもらえるように歯科医師さんと歯科衛生士さんと気になる「なぜ?なに?」にお答えします。



日本歯科医師会 広報委員会委員
歯科医師 石野 善男

被ばく線量の比較*

mSv: ミリシーベルト

放射線というのはどこにでもあって宇宙や大気、大地や食べ物からも浴びますし

飛行機に乗れば地上よりも高い値になります



自然界(年間)

(宇宙・大気・大地・食物から)
世界平均 2.4mSv
日本平均 2.1mSv

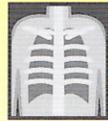
航空機(東京⇄NY)

0.11~0.16mSv

東京 ニューヨーク

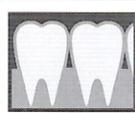
胸部のレントゲン撮影

0.06mSv



歯科のレントゲン撮影

0.002~0.01mSv



歯科レントゲン撮影の放射線量は自然界から年間に浴びる放射線量と比べても

1/100 以下とごくわずか

*出典: 放射線による健康影響等に関する統一した基礎資料 平成28年度版 ver.2017001

安心編

放射線...?

レントゲンで安心なの?



レントゲン撮影で使うのは人体に影響するレベルには程遠いごくわずかな量なので大人にも子どもにも安心と言われています

一般的にレントゲンと言われているのは放射線のひとつのX線を使った写真撮影のこと

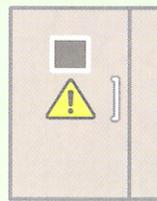


撮影は口の周りだけなので

胎児への影響も限りなく少なく妊娠に気づかずレントゲンを撮ったとしても心配ないと言われています

X線は撮影後すぐに消滅するのでレントゲン室にも残っていません

使用中



ただし!

あらかじめ妊娠が分かっている場合はレントゲンに限らず診察や治療に気を配りますので必ず受診前に歯科医師かスタッフに伝えてください!



何のためにレントゲンが必要なの？

分かること編



見たり触ったりするだけでは分からない
歯や歯ぐきの内部を確認することはとても大切なのです

症状などに合わせて使う
さまざまな機種や手法の中から

一般的によく使う「デンタルX線」と「パノラマX線」をご紹介します



「デンタルX線」は2、3本の歯を写し出す方法

デンタルX線

小さなフィルムを口の中に入れて外側からX線を当てて撮影



かかれたむし歯や歯を支えている歯槽骨など特定の範囲を細かく診られます

「パノラマX線」は顎全体を写し出します

パノラマX線

撮影装置が、頭の周りをぐるっと回って撮影

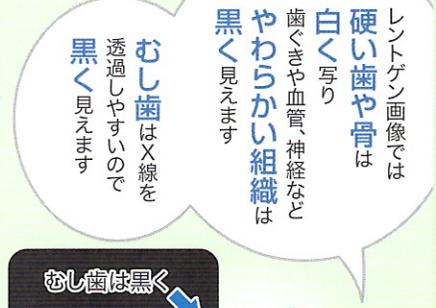


むし歯や歯周病を全体的に診たり

親知らずや歯の生えかわり、骨の中の腫瘍や顎関節などをチェックします

レントゲン画像では硬い歯や骨は白く写り、歯ぐきや血管、神経などは透しやすいため、黒く見えます

むし歯はX線を透過しやすいので黒く見えます



例えば、詰め物の下や歯と歯の間など

外からでは見えない部分のむし歯を発見できたり

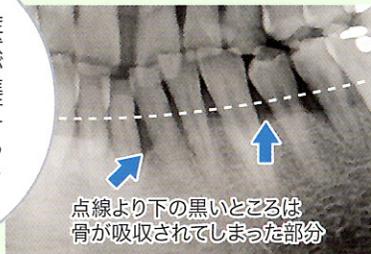
case1 むし歯(二次う蝕)



詰め物は白く見える

むし歯(二次う蝕)

case2 歯周病



症状が進行すると歯槽骨が破壊・吸収されてしまった様子も見ることができます

点線より下の黒いところは骨が吸収されてしまった部分

歯ぐきにかくれている歯石の付着など、自覚症状が少ない歯周病の症状もしっかりキャッチ



むし歯は黒く

歯は白く

歯槽骨は白く

直接見られない部分を確認できることで適切なアドバイスや処置を行うことに役立っています

1895年にウイルスヘルム・コナラト・レントゲン氏がX線を発見した日は



なんと！11月8日(11月の日)！

おかげで、お口の健康状態もしっかり把握することができますね！

